



認定特定非営利活動法人(認定NPO)

インド福祉村協会

会報
2011.4.1
Vol.20

India Welfare Village Society News

<http://iwvs.web.infoseek.co.jp/>

インド福祉村協会

検索

特定寄付金に税制上の優遇措置が認可(ボランティア募集中)

公衆衛生教育と人材育成最終報告 JICA計画:JPP特集5

平成19年9月1日~22年8月31日

■JPP事業3年間成果 (2011年3月末現在)

保健衛生教室…130回開催
衛生教室参加人数…婦人 2,890名・妊婦 411名・検査妊婦 162名
小、中学校巡回衛生教育…40校・生徒数 8,567名・教師 145名
頭シラミ治療…542名・検査数 657名

プロジェクト目標

対象地域の人々に基礎保健衛生に関する知識が普及

- 1) 基礎的保健衛生広報
- 2) 教育資料完成・新教育ルーム開設
- 3) 講習会実施
- 4) 婦人妊婦衛生指導・小、中学生衛生指導
- 5) 人材育成継続指導
- 6) 事業報告会と検討

活動

対象地域にて基礎保健衛生指導が継続して行われる。

- 1) 地域住民への保健衛生に関する必要性の動機付け
- 2) 新教育ホール建設・教育、機材・資料作成と充実・母子健康手帳作成と利用
- 3) 小学校巡回教育、頭シラミ治療
- 4) 婦人妊婦保健衛生指導
- 5) 専任女性指導養成と新普及員
- 6) 会報発行JPP事業ニュース発行、JICA検討会出席、各会議にて報告・検討



(加藤伸也氏と指導員スーマン女史)

インドにおける衛生教育指導レポート

現地プロジェクトマネージャー 加藤 伸也

JICAプロジェクトとして1年間の内、約6ヶ月弱、衛生教育指導の為に滞在しました。インドの特に「村」の生活・衛生環境は日本の何年前に想定できるのか、恐らく50年から60年前と思われる。デリーの大都市でも衛生環境は決していいとは言えません。ましてや、「村」では想像を超える所です。インドは「遅れている」、「汚い」、「暗い」等と見るよりは、何十年前の日本を再現していると認識しているのが現状です。

表現が正しいかどうかは別にして、歴史上の「後進国 日本」の鏡として捉えています。決して「先進国 日本」の眼で見えてはいけないと強く感じています。このインドも何十年後には素晴らしい国になるでしょう。その一助に携われたことに感謝しています。「教育」だけでは克服することは困難ですが、「衛生」を考えると総合的な取り組みが必要で

あろうと思います。

この活動を進めている中で、元病院職員であった検査技師が次の技師が採用されるまで、土曜日に無償で手伝いに来てくれていました。彼は90分もの距離にいます。あるいは高校の女学生が休校の時にシラミ検査後の薬渡しを手伝ってくれました。

このような、インドに見合った衛生教育推進をインド人自身が進められるようこれからも援助・助言が必要です。

「草の根」から「心の根」に変化できれば言うべき言葉はありません。



(婦人妊婦子供達への衛生教育)



(アーナンダ病院全景)

婦人:妊婦衛生教育(新教育ホール)

婦人:妊婦教育回数…130回 婦人:妊婦参加人数…2,890名
 妊婦参加人数…411名 精密検査妊婦…162名
 母子健康手帳(MCHハンドブック)…2,000部配布(1,000部増刷)



(婦人妊婦子供達への衛生教育)

〈活動〉

- ①アーナンダ病院内に保健衛生教育ルームを開設、講習会開始
- ②アーナンダ病院内保健衛生指導環境を充実し、新教育機材を購入
- ③啓発用パンフレットの印刷、スライド、ビデオ、紙芝居の作成、利用開始
- ④母子健康手帳を作成(インドを考慮して内容検討、印刷)
- ⑤平成19年12月7日から毎週金曜日婦人妊婦生活衛生指導、健康診断、血圧測定、検尿等を実施し要検査者には血液検査実施
- ⑥新妊婦には梅毒検査、母子健康手帳を配布
- ⑦妊婦中毒症等問題のある妊婦は定期的に呼び出し検診と生活指導を行う
- ⑧仲井美由紀、芝山章子プロジェクトサブマネージャーより妊婦指導内容のアドバイスをうける
- ⑨母子健康手帳配布により妊婦単独の受診件数増加(別紙会報17,18号)



(MCHハンドブック)



(GUPTA医師の妊婦検診)



(待合室衛生指導)



(ビデオ衛生教育)



(インド政府婦人用スライド)

〈成果〉

	婦人参加数	妊婦	検査妊婦
1年目 1回~15回 (H19.9~H20.3)	309名	140名	27名
2年目 16回~65回 (H20.4~H21.3)	1,095名	172名	59名
3年目 66回~109回 (H21.4~H22.3)	988名	73名	23名
4年目 110回~130回 (H22.4~H22.8)	498名	26名	53名
総合計	2,890名	411名	162名

参加者にPR拡大。妊婦と共に祖母、子供も多数参加、スタッフによる部落訪問。MCHブックを妊婦に配りPR活動を実施、自主的に妊婦が検診を受ける件数が増加。

- 1年目:当初、政府による婦人・妊婦の生活指導テキストは未完成でしたが2年目より教育資料がそろいました。妊婦は家族以外顔を見せない、家の近辺以外歩かない習慣があり、衛生教室の出席にとまどいがありました。また栄養状態も悪く貧血流産が多くなる原因になっていました。
- 2,3年目:次第に婦人、妊婦の外出が許可されるようになり、出席人数も増加してきました。週1回の婦人衛生教育生活指導は発展し、妊婦生活指導と検診は希望者が増加していました。平成20年1月より病院スタッフにより研修講義を実施しました。妊婦とDrの相談コーナーをもうけ指導を行いました。妊婦教室以外の受診患者も増加しました。

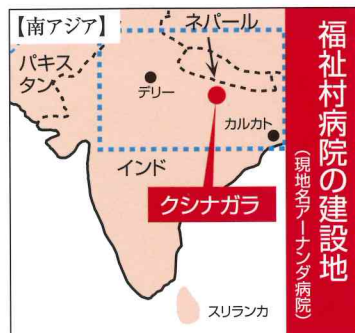
診察をうけた感想

ニラージデビさん

アーナンダ病院で婦人妊婦への教育を受けました。無料で検査してもらい診察を受けて薬をもらいました。妊婦として大変お世話になり助かりました。無事に出産を迎える事ができました。色々な事を教えてもらえる事は大変ありがたいことでした。

ミシュナデビ御主人 アンガットンさん

アーナンダ病院で妊娠検査をしてもらいました。無料で必要な薬も提供してもらいました。妊婦手帳をいただき検査結果を記入してもらいました。初めての体験で良かったです。手帳をもらい妊婦の安全が分かりました。貧しい人々に協力してもらえる事、すべてに感謝しております。



福祉村病院の建設地
(現地名アーナンダ病院)



(スタッフ全員、2011年正月)

現地住所

ANANDA HOSPITAL TEL:91-92354-24671 / 91-5564-217544

住所:VILLAGE SIRSIA DIST KUSHINAGAR 274403.UP.INDIA

学校保健衛生教育

実施学校数…40校・生徒数8,567名・教師数194名

〈活動〉

- ① 婦人妊婦、学童、乳幼児を対象に手洗い、食事、蚊予防、排便等の保健衛生知識の動機付け。感染症予防のために生活習慣改善の必要性について指導
- ② 洗髪の有用性、水の確保、衣類の交換、靴サンダルの使用、つめきり、蚊の発生と防御、床上寝食、蚊帳の使用、感染症、寄生虫についての講習会
- ③ スタッフ6名の日本研修により更に保健衛生知識向上の成果がみられた。小学校への保健衛生指導を継続実施。開始から平成22年8月までに40校実施した。頭シラミの治療が、開始発展増加
- ④ 各小学校に手洗いソフプレットを入り口、壁に掲示して励行を啓蒙
- ⑤ 小学校巡回衛生教育



(小学校衛生教育)



(手洗いソフプレットの教育)

	学校数	生徒数	教師数
1年目(H19.9~H20.3)	未実施	未実施	未実施
2年目(H20.4~H21.3)	19校	3,990名	46名
3年目(H21.4~H22.3)	33校	3,052名	96名
4年目(H22.4~H22.8)	7校	1,525名	49名
総 合 計	59校	8,567名	191名

教育をうけた感想

学校教師 **ディラニド・プラタッグ・ラオさん**

スーマンデビと加藤さんが学校へ来てくれて、子供の健康や体の洗い方、手の洗い方、食事の注意、生活上の感染、その病気への注意を長時間話してもらった。子どもたちは、クリーンな服を着て出迎え勉強した。加藤先生やリーダーが衛生教育をしてくれることは大変嬉しい今後も度々来て衛生教育をしてほしい。今日は、本当に幸せな日であった。

小学生 **サティ・クマール・セドさん**

アーナンダ病院のスーマンという衛生教育のリーダーが学校へ来て健康管理について詳しく教えてくれました。手洗い、爪切り、シラミ、虫の感染の話聞いて感染の病気の恐ろしさを知りました。手洗いの大切さを感じることができました。ぜひ、守っていきたい。

頭シラミ検診・治療

パンフレットによる手洗い、サンダル使用、蚊の感染症、蚊帳の使用、寄生虫による衛生教育実施。子供達への巡回教育実施。児童の体格測定を実施し身長・体重とも成長がおそく、栄養状態不良が確認された。

○幼少女子への頭シラミ治療・予防指導

	検査数	シラミ薬配布数
1年目(H19.9~H20.3)	未実施	未実施
2年目(H20.4~H21.3)	319回	267名
3年目(H21.4~H22.3)	184回	200名
4年目(H22.4~H22.8)	154回	75名
総 合 計	657回	542名



(薬の配布)

治療をうけた感想

小学生 **マーニッシュさん**

髪の毛にたくさん虫がついていた。アーナンダ病院でたくさん薬を無料でもらってうれしかった。貧しい私たちのためにアーナンダ病院が協力してくれるのは大変うれしい。



(頭シラミ検診の受け付け)

JICA草の根支援、JPP事業:総括

インドアーナンダ病院は平成10年に開院し、当初から村民への親切的な医療提供をつづける事以外に、感染症が多い村民への基本的な衛生教育の必要性があり強く望まれておりました。平成15年からJICA草の根事業へ参加検討を開始し、ND・JICA事務所、インド日本大使館をたびたび訪問し、インドの衛生環境とインド政府の衛生教育行政(当時具体政策なし)等の現状環境を指導いただきました。アーナンダ病院では村民治療を優先的に提供して

12年になり、村民もその存在はクシナガラ地区だけでなく遠くの州からも、親切的な治療の評判を聞き来院する患者が多く見受けられるアーナンダ病院の受診患者は、男性40%女性50%子供10%と本来の目的に合致した直接的な影響が得られています。妊婦が外出しない、検診を受けないという風習がようやく開放されつつあり、この計画発展が間接的に大きな影響があったと考えられています。さらにMCHハンドブックが利用拡大することを期待しております。

JPP事業 経過:訪問指導

1年目(平成19年9月~平成20年3月)

- 11月13日~18日グプタ医師、ニディヒ職員が日本国内の各病院、保健所、医療施設で基礎的衛生教育と最先端感染症教育等の研修を実施。研修後、体験を生かした公衆衛生教育と妊婦指導に励む。
- PM加藤氏 ND・JICA研修会参加
- IWVS理事会検討会3回 会報発行
- ND・JICA佐々木氏他現地指導

2年目(平成20年4月~平成21年3月)

- 現地スタッフ2名、8月31日~9月6日に日本研修を実施
- ND・JICA山田次長以下4名現地指導
- NGO・JICA連携講習会、海外安全講習会参加
- 日本スタッフ看護教師、看護師、ボランティア多数現地訪問、支援指導
- IWVS理事会4回検討会2回報告会
- 会報14,15号(JPP特集)発行

3年目(平成21年4月~平成22年3月)

- 現地スタッフ2名3月31日~4月5日日本研修実施
- ND・JICAスタッフ3名現地訪問、指導
- JICA中部インド祭りにてJPP事業発表
- ND・JICA NGO研修会参加
- IWVS理事会4回検討会2回報告会
- JICA中部NGO名古屋パンフ研修会にて新パンフ作成
- 会報16,17,18号にて事業広報

4年目(平成22年4月~平成22年8月)

- ND・JICA渡辺次長、釘田NGO担当者、OWSAニュース記者2名現地訪問
- JPP最終指導、JPP業務完了報告・継続課題検討・JPP事業継続決定



(村の水牛と子供達)



(村のチャイ店レストラン)



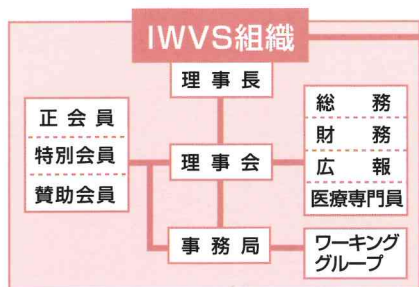
(村の結婚パレード)

認定特定非営利活動法人
(認定NPO)

インド福祉村協会

(IWVS)

インド福祉村協会は、民族、宗教を超えて日本とインドの両国民が共通の価値観を共有し、互いに学び合うことを理念として、インド国の医療に恵まれない人々に対して、プライマリ・ヘルスケアを中心とする診療活動と保健衛生活動及び不就学児童らに対する教育活動を行うことによって、インド国の医療の充実及び幼児教育の充実を図り、もって両国の友好に寄与することを目的としています。診療活動としてクシナガラにてインド福祉村病院(アーナンダ病院)を開院、運営を行っています。



ホームページ <http://iwvs.web.infoseek.co.jp>

クシナガラの町・仏跡



(涅槃堂)



(お釈迦様)

入会のお願ひ

- 正会員:年会費** 5,000円 総会の議決権があります。協会の会報を毎回お届けします。プロジェクトの進み具合、現地の情報を逐次お知らせします。現地宿泊の便宜を図ります。
- 特別会員:** 100,000円(一〇以上) 代表一名を正会員として登録します。その他正会員と同様。
- 賛助会員:年会費** 1,000円(一〇以上) 総会の議決権はありません。協会の会報をお届けします。

【会費・寄附の支払い方法】

郵便振替 郵便振替用紙を利用し、最寄りの郵便局より手続きを行う。ご一報いただければ用紙をお送り致します。また、入金が確認されましたら領収書を送らせていただきます。寄附金は、税制上の優遇措置が受けられます。

郵便振込(口座番号) 00830-2-65008 (加入者名)インド福祉村協会

銀行振込 ゆうちょ銀行(口座番号)12120-68672771 (加入者名)インド福祉村協会

募金のお願ひ!

少しでもあなたの善意を
分けて下さい。

インド福祉村協会(INDIA WELFARE VILLAGE SOCIETY)
理事長/山本孝之 常務理事/大竹紘一
理事/柴田昌雄、高木元昊、中村義博、田中久子、K・L・バハール、樋口恵子
吉田晃、加藤伸也 事務局長/武田和敏
ホームページ/<http://iwvs.web.infoseek.co.jp> E-mail/iwvs@post.sala.or.jp

■発行者 インド福祉村協会(IWVS)
■発行人 大竹紘一 加藤伸也 ■編集 文創社
■インド福祉村協会事務局(若菜荘内)
〒441-8124 愛知県豊橋市野依町字山中19-12
TEL:0532-48-1138 FAX:0532-48-2365